

| 研究実施責任者 | プロジェクト名 | 期間 | 配分額(円) |
|--|------------------------------------|--------|-----------|
| 文化学部・教授 橋尾 直和 | 言語文化教育としての「民話」を活用した学術的・国際的な地域還元型教育 | H30-R1 | 1,031,116 |
| 研究概要 | | | |
| <p>本事業の目的は、①「民話」を活用した「地域還元型教育」を広く「言語文化教育」として捉え、高知県下に伝わる「民話」を体系的に整理し、学術的な記録・保存のための調査活動を行う、②伝統的で貴重な「民話」を言語文化教育（言語教育・文学教育）における教材として教育現場に還元する、③中国・欧米の「民話」との比較研究を行い、各言語に翻訳し情報発信を行うことで、言語文化教育における教材として学術的・国際的な教育研究事業を展開する、④地域の教育機関や行政等との連携を図り、共同事業等を通じて、児童や生徒の学問に対する興味や関心を高めるための公開講座や出前講義等の学習支援活動を行う、ことである。これらの活動は、本学の「域学共生」の理念に基づく言語文化領域における教育改革となり、中期計画の「グローバルな視点と地域への視点を併せ持ち、国内外の課題に協働して取り組み、社会に貢献できる人材を育成するよう、教育内容の充実を図る」に合致する。</p> <p>本県の「民話」（昔話・伝説・世間話など）の採集は、昭和10年代から始められているが、民族調査の副産物として偶然採集されたものが多い。民間伝承としての「民話」は、他の民族事象と同じく家やムラを離れて存在するものではなく、それを生み出し伝承してきた地域社会との関連において、構造的・総合的に考察しなければならない。高知県にはまだ学術的調査から取り残されている地域が多く、これらの地域における正確な記録・保存活動により、「民話」という地域文化資源の再発見とその利活用を行う。</p> <p>また語り部が「民話」を生徒・学生たちに語ることは、地域文化の次世代への継承へとつながる活動であり、その成果が地域の国語教育に寄与するところは大きいといえる。「民話」に登場する地名、文化財、伝統行事、風習、方言などを生徒・学生たちが調査研究することにより、地域の歴史・文化・環境などを同時に学ぶことができ、学習指導要領に掲げられている「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」と重なり、「民話」を活用した地域還元型教育研究が、大学のみならず小・中・高等学校の教育理念と関連していることを意味している。</p> <p>本事業で予想される結果と意義は以下の通りである。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①「語り部」が減少している高知県の地域に残る、危機に瀕する「民話」の記録・保存 ②過去の記録された高知県の地域に残る「民話」の再整理及び未発見の「民話」の発掘 ③「民話」の国語教材の教育現場への還元 ④「民話」の比較文学研究への応用 ⑤「民話」の中国語・英語による翻訳による国際化 ⑥言語文化教育による新しい「語り部」の育成 ⑦観光事業への応用・活用 ⑧「カンカンミンガク」活動の新たな展開 | | | |

研 究 成 果

大豊町岩原の民話の記録・保存調査から、12話（伝説2話、昔話2話、世間話8話）の民話を収集した。物部町別府の調査から、11話（伝説6話、昔話3話、世間話2話）の民話を収集した。「民話の記録・保存調査」においては、数に大差なかったが、分類に差が出た。岩原では戦後に神や仏といった類の物を軽んじる傾向にあり、一方で別府では家の水場など至る所に神様がいますと考えられるなど、信仰の違いが分類に差が出た理由だと考えられる。

上記成果を検証し「民話の収集及び活用」に向けた取り組みに関する情報収集を、現地調査および文献調査によって実施した。調査の重点は、民話の収録数を増やした体系的記述と分析・考察を、「言語文化教育」への民話研究の還元、民話教材の開発、中国説話との比較分析、近代・現代文学の作家の基盤となっている柳田の価値観の民話の再搜索への継承、信仰と民話の比較研究において実施した。

成果の取りまとめに向けて、現地での補足調査を行った。研究成果を報告する講演・シンポジウムを開催し、作成した成果報告書を関係機関（オーテピア高知図書館、高知県立文学館、高知県立歴史民俗資料館、豊永郷民俗資料館、香美市教育委員会生涯学習課等）に送付し、地元住民への還元を行った。教育現場への還元としては、授業等で研究成果を学生とともに考える機会を設けた。

成 果 物 等

【学術論文】

1. 橋尾直和（2019）「高知県長岡郡大豊町岩原と香美市物部町別府の民話」『高知県立大学文化論叢』7: 61-74
2. Andrew Oberg（2019）「Preliminary Report on the Joint Tosa Folklore Project: Use and approaches of Virgin Mary statuary, then and now—a Tosa perspective」『高知県立大学文化論叢』7: 89-100
3. 橋尾直和（2020）「高知県長岡郡大豊町岩原と香美市物部町別府の民話—民話分類の再考—」『高知県立大学文化論叢』8: 15-30
4. Andrew Oberg（2020）「Facing a form of/formed God: Japan's Hidden Christians and usages of the image- a phenomenological perspective」『高知県立大学文化論叢』8: 31-74
5. 橋尾直和・井上次夫・オバーグ アンドリュー・高西成介・田中裕也（2022）「言語文化教育としての『民話』を活用した学術的・国際的な地域還元型教育」『高知県立大学文化論叢』10: 1-5

